

上武大学
経営情報学部紀要

第 26 号

目 次

<論 文>

1. サプリメンタリー・ステイトメント第7号と
ムーニッツ学説の比較 神 納 樹 史 (1)
 2. 企業統治と経営者の裁量について 中 村 雄 司 (15)
 3. 三つの原型による一つのテキスト分析 (英文) ジェリー・ブッシュ (67)
 4. 関東山地東部, 奥武蔵の飯能礫層構成礫の運搬経路
—入間川・多摩川間の山地の例— 新 井 健 司 (95)
 5. カスピ海石油資源争奪の史的展開 小野澤 隆 司 (109)
 6. 有向サイクルを2つ持つ多元環の大局次元 (英文) 植 松 盛 夫 (125)
 7. 産・学による人材育成のためのキャリア教育についての考察 白 井 晴 男 (133)
 8. 小川洋子「妊娠カレンダー」論 高根沢 紀 子 (162)
-

2003年12月

上武大学経営情報学部

上武大学経営情報学部紀要規程

上武大学経営情報学部紀要規程

(編集及び発行)

第1条 上武大学経営情報学部（以下「本学部」という。）は、本学部に所属する教員相互の、及び他の教育研究機関との学術研究の推進及び交流を図るため、上武大学経営情報学部長を編集兼発行人として、上武大学経営情報学部紀要（以下「紀要」という。）を編集し、発行する。

(設置)

第2条 前条の事業を行うために、本学部の上武大学経営情報学部紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）をおき、上武大学附属図書館分館内に上武大学経営情報学部紀要編集部（以下「編集部」という。）をおく。

(組織)

第3条 編集委員会は、編集委員長1名及び編集委員若干名をもって組織する。

- 2 編集委員長は、本学部の専任の教授の中から選出する。
- 3 編集委員は、本学部の専任の教員の中から選出する。
- 4 編集委員長及び編集委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(査読)

第4条 紀要への投稿原稿は、編集委員会が委嘱した査読者の審査を経て、編集委員会において掲載の可否を決定する。

(委嘱)

第5条 事業の円滑な遂行のため、編集部業務を上武大学附属図書館分館司書室に委嘱する。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、紀要の編集及び発行に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 上武大学経営情報学部紀要編集委員会規約は廃止する。

「上武大学経営情報学部紀要」投稿・執筆要綱

1. 投稿資格

上武大学経営情報学部専任教員又は上武大学経営情報学部紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）の認めた者とする。

2. 募集原稿

論文、研究ノート、調査資料、翻訳、書評その他編集委員会が認めたものとする。

3. 使用言語

原稿本文は、和文又は欧文とする。

4. 原稿の枚数

原則として自由であるが、編集上支障がある場合は、投稿者は編集委員会の決定に従う。

5. 原稿の提出

投稿者は、「12. 執筆要綱」に従って作成した完成原稿3部を原稿募集期間中に編集委員会に提出する。

6. 投稿原稿の掲載

投稿原稿は、編集委員会が委嘱した査読者による審査を経て、編集委員会において掲載の可否を決定する。

7. 印刷の体裁

1ページ（B5版）につき、横書きの場合は40字×33行、縦書きの場合は28字×23行（2段組）とする。

8. 校正

校正は、主として印刷上の誤りや不備の訂正とし、大幅の書き換えや内容の変更は避ける。また、著者による校正は原則として1回のみとし、3校を限度とする。

9. 別刷り

投稿者が実費を負担する。

10. 原稿の電子化

国立情報学研究所は、上武大学経営情報学部からの申請に基づき、本紀要に掲載された原稿の一部又は全部を電子的に蓄積し、同研究所が行う情報提供サービスにより公開することができる。公開された内容について及び当該サービスの利用者が公開された内容を利用した結果について、上武大学経営情報学部は一切その責任を負わない。

11. 電子化の許諾

投稿原稿の著者は、当該原稿の著作権者として、投稿に際し、前項について同意するものとする。特別な事情により前項前段について同意することが困難な場合は、著者と上武大学経営情報学部との間で協議の上措置する。

12. 執筆要綱

(1) 原稿用紙

手書きの場合は原則として、横書き、縦書きとも200字又は400字詰め原稿用紙を用いる。ワープロを使用する場合は、A4版ワープロ用紙に十分な余白と行間（ダブルスペース）をとって印字する。

(2) 書体・字体・仮名遣い

固有名詞・引用文を除き、楷書・新字体・新仮名遣いを用いる。

(3) 符号

句読点（、．、。）・中点（・）・括弧（「」（）〔〕）・疑問符（？）・感嘆符（！）・ハイフン（-）・コロロン（：）等の符号には、いずれも1字分をとる。なお、横書きの場合、読点にはコンマ（,）を、句点にはマル（。）又はピリオド（.）を用いることとする。

(4) 数字

数字は、原則としてアラビア数字を用い、数字が複数続く場合は1字分に数字2字を入れる（3種類、1997年、1.5倍など）。ただし、熟語や固有名詞等、一般的に漢

数字が使われる場合は、それを用いる（一部分、二酸化炭素、八十八夜など）。

(5) 表紙

表紙には、論文、研究ノート等の種別、表題、著者名を明記する。和文原稿には、和文表題・和文著者名の他に欧文表題・欧文著者名を、欧文原稿には欧文表題・欧文著者名の他に和文表題・和文著者名をそれぞれ付記する。

(6) 表題の語の頭文字

欧文表題中の冠詞 (a, an, the)、前置詞 (at, in, of, on, to 等)、等位接続詞 (and, but, or, nor 等)、不定詞の to の頭文字は小文字（先頭語の場合を除く。）とし、その他の語の頭文字はすべて大文字とする。

表題を本題と副題で構成する場合は、本題の後にコロロン（:）を付けて副題を続ける。副題の語の頭文字の表記も本題と同様である。

(7) 図・表

図と表は1枚ずつ別紙に作成し、それぞれに通し番号と表題を付ける。さらに、本文原稿の右余白部に、各図・表の挿入位置がわかるように図・表番号を記入する。

また、正確を期するため、「紀要原稿割り付け用紙」を用いて、印刷時の各図・表の位置と大きさを指定する（刷り上がりの大きさが6×6cmの図・表は、本文原稿の18字×10行に相当）。

(8) 注

注は、本文の当該個所の右肩に括弧付きの通し番号を付け、章末や本文末尾に対応する注釈を番号順に列記する。

(9) 文献

原則として本文の文中では、著者（編者）名の後に括弧付きで発表年を記し、文末では括弧中に著者名、発表年を並記する。／例：田中（1995）によれば…。…という説もある（鈴木・佐藤，1996）。

本文の末尾には、著者（編者）名の五十音順、アルファベット順などに従って文献を列記する。原則として1文献につき、著者（編者）名、文献名、発行年数、雑誌（収録書籍）名、巻数、号数、掲載ページ範囲を記す。

その他の文献の細則は、専門分野により異なるため、関係学会誌の慣例に従うこととする。

執筆者紹介（論文掲載順）

神 納 樹 史（連結会計）
中 村 雄 司（株式会社論）
ジェリー・ブッシュ（Spoken Discourse Analysis）
新 井 健 司（地形学）
小野澤 隆 司（国際経済）
植 松 盛 夫（数学）
白 井 晴 男（情報システムの設計と開発）
高根沢 紀 子（日本近現代文学）

編 集 委 員 会

編集委員長 中 村 雄 司
編集委員 新 井 健 司
(50音順) 竹 内 芳 衛
松 崎 昇

上武大学経営情報学部紀要

第26号

2003年12月25日 印 刷

2003年12月30日 発 行

Printed in Japan

編 集 兼 猪 川 倫 好
発 行 人

発 行 所 上武大学経営情報学部
〒370-1393 群馬県多野郡新町270-1
TEL. 0274-42-2828

印 刷 学校法人 学文館法人本部財務部印刷課
〒370-0862 群馬県高崎市片岡町1-15-19
TEL. 027-327-9192

© Faculty of Management Information Sciences, Jobu University 2003

ISSN 0915-5929

BULLETIN OF FACULTY OF MANAGEMENT INFORMATION SCIENCES JOBU UNIVERSITY

Number 26

December 2003

Contents

<Papers>

1. The Comparison of the Supplementary Statement No.7 and
the Theory of Maurice Moonitz (*in Japanese*) Jinnou Mikihiro (1)
 2. On the Corporate Governance and
Managere's Discretion (*in Japanese*) Nakamura Yuji (15)
 3. One Essay—Three Textual Patterns Jerre Bush (67)
 4. Transportation Route of the Gravels of the Hanno Gravel
in Okumusashi Region, Eastern Kanto Mountains
—An example around mountains between the Iruma River
and Tama River— (*in Japanese*) Arai Kenji (95)
 5. The Historical Development of Oil Resources
in the Caspian Area (*in Japanese*) Onozawa Takashi (109)
 6. Global Dimension of Algebras Whose Quiver
Contain Two Oriented Cycles Uematsu Morio (125)
 7. A Study of Career Education for Career Development Collaborating
with Company and University (*in Japanese*) Shirai Haruo (133)
 8. On Ogawa Yoko "Pregnancy Calender" (*in Japanese*) ... Takanezawa Noriko (162)
-

Published by
Faculty of Management Information Sciences
Jobu University